

本年度テーマ	事業内容	高知西高等学校（グローバル探究）	
概要・目的	<p>本県におけるグローバル教育では、生徒が授業や課題研究に取り組む中で、論理的思考力や判断力、表現力を身につけるとともに、英語運用能力の向上を図り、将来グローバル人材として活躍できる資質を育成することを目的としている。生徒が学習を進めていく中で、どのような活動が必要で、それらをどのような手順で積み重ねていくのかについて、具体的に示して指導することが必要である。本年度は、これまでの研究を踏まえた実践の充実・普及と、開校する高知国際高等学校への継承をイメージして協議する。</p>		
P 平成30年度の当初計画	D 平成30年度の取組状況	C 課題（●）とそれに対応する今後の取組（→）	A
<p>取組① SGH プログラムの実施と磨きあげ</p> <p>■ 探究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル探究Ⅰの実施 ・グローバル探究Ⅱの実施 ・グローバル探究Ⅲの実施 ・県内リサーチ（8月） ・国内リサーチ 　　大阪リサーチ（8月） 　　東京リサーチ（1月） ・海外リサーチの実施 　　台湾・香港・シンガポール・タイ ・国際シンポジウムの開催（7月11日） ・SGH成果発表会（2月13日） <p>■ 英語教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多読・多聴・多話・多書の推進 ・英語による探究活動（グローバリエデュケーションⅠ、英語課題探究など） <p>■ 探究活動に関する教科間連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル探究Ⅲ（総合的な学習の時間）、課題論文（国語、学校設定科目）、グローバリエデュケーション（英語科専門科目）、英語課題探究（普通科英語の学校設定科目）の連携 	<p>取組① SGH プログラムの実施と磨きあげ</p> <p>■ 1年：グローバル探究Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイダンス 1回（4/17）1時間、仲間づくりワーク 1回（4/18）2時間 高知県の課題を知る 8回（4/25～6/27）16時間 講師14名招へい 県内リサーチ 1回（9/12）各グループで県内企業・団体訪問（17社） <p>■ 2年：グローバル探究Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイダンス 2回（4/12、20）3時間 講師1名招へい リサーチクエスチョンの洗い出し 1回（4/27）2時間 グローバル問題の絞り込みと具体化 3回（5/11～6/8）6時間 論理的な発表に向けて 1回（6/15）2時間 論理的な発表に向けて（途中経過発表会）1回（6/22）2時間 課題及び仮説の設定、解決案の提示 大学教授による指導・助言 8名招へい 「夏休みアクションプラン」の具体的計画作成 1回（6/29）2時間〔2回分中の1回〕 <p>■ 3年：グローバル探究Ⅲ</p> <ul style="list-style-type: none"> ガイダンス 1回（4/17）1時間 個人で関心のあるテーマを設定しリサーチペーパー（論文）を作成 　　普通科理型・・・2,000字、普通科文型、英語科・・・4,000字 　　9回（4/18～6/27）18時間 全員提出済 <p>■ グローバルマインドなどの生徒の成長を分析するための生徒アンケートを6月に実施（2月に2回目を実施予定）</p> <p>■ 国際シンポジウム開催（7/11） 於：高知県民文化ホール（オレンジホール）</p> <ul style="list-style-type: none"> 午前の部：基調講演 葛城 崇氏 「これからの中でも輝くためにーなぜ英語を勉強するのかー」 生徒発表3（使用言語：英語）3年普通科1グループ、英語科2グループ 午後の部：高知西高生とタレマーシュタイナー高校とのディスカッション 　　テーマ：「地域創生を支援するためにどうやってSNSを活かせるか」 <p>■ オーストラリア、タスマニアのタレマーシュタイナー高校（本校提携校）の生徒8名と教員2名来校（7/7～13）</p> <p>■ 海外長期留学生の受け入れ（2名 9月～6月の10ヶ月間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フランス1名、ノルウェー1名 <p>■ 夏季休業中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル・リンク・シンガポール2018（シンガポール国立大学）でポスター発表 　　生2名（7/20～24） ・オーストラリア語学研修（7/28～8/13）の参加者14名（1年9名、2年5名） ・大阪リサーチ（8/2～3）の参加者21名（1年生19名、2年生2名） ・海外リサーチ参加者決定とリサーチ活動 　　台湾リサーチ（9/25～29）1年生8、香港リサーチ（9/23～27）1年生4名 　　シンガポールリサーチ（9/23～27）2年生8名 　　タイリサーチ（11/19～11/22）2年生5名 	<p>取組① SGH プログラムの実施と磨きあげ</p> <p>■ 1年：グローバル探究Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 担当する教員（正副クラス担任）は年度ごとに入れ替わっていくので、前年度の経験を教員個人が積み重ねることはできないので、プログラムを進めていく上で教員間の円滑な情報共有を行うこと。 →各授業と年間計画の関連性などについて、担任会でその都度説明するとともに、担当教員の声を拾い、丁寧に答える。 <p>■ 2年：グローバル探究Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SDGsに関わる課題設定を行うに当たって、理型クラスにおいてはできるだけ理系のテーマを設定すること。 →年度当初から理型クラスは得意とする理系内容で、SDGsにアプローチする方向で指導する。 <p>■ 3年：グローバル探究Ⅲ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1学期までの短期間で、個人でリサーチペーパーを作成すること。 →2年3学期、春休みを利用して、文献検索やテーマ決めを行い、3年次での授業で速やかに作成に取り組めるように、3月のグローバル探究Ⅱの計画を確定する。 <p>■ 国際シンポジウム</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 午後の高知西高生とタレマーシュタイナー高生とのディスカッションにおいて、聴衆をより巻き込んだものとすること。 →サマリー役の生徒を配置して内容が聴衆に理解できるようにしていたが、もう少しサマリーの間隔を短くする、スクリーンに概要を提示するなどの工夫を検討する。 ● 研究発表は、2年次のグループ研究から選出しており、選んだグループ研究の内容を国際シンポジウムまでに深化させること。 →グローバル探究Ⅱのグループ研究において、参考文献や先行研究の事例をより多く収集するように指導して探究を深めるとともに、リサーチペーパーのブラッシュアップの回数を増やすことにより、探究内容を充実させる。 →普通科「英語課題探究」選択者は、2年次のうちから他のグループと分けて授業内での探究活動を開始し、春期休業期間から校外活動等を実施する。 ● 発表指導に関する全体体制の構築。 →研究発表内容は多岐にわたるので各教科に協力を依頼し、教科に関するテーマについてセンターとして指導してもらう。生徒との面談が円滑にできるよう予約システムをつくる。 <p>■ SGH 指定期間終了後の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ● SGH 後継事業の認定を受ける →後継事業の内容の確認と申請準備（H31） ● 県単独予算での継続 →現行のグローバル探究等の内容の精選と予算の確保（H31） 	

平成30年度 到達目標

- ・国公立大学合格者100名以上などのAgenda N 2018の目標を達成する。
- ・3年間のSGHプログラムの完成度を高める。

